

第御一箇條之御返_請答

一 元禄五壬申年二月十一日米子より出船、隠岐国
 嶋後福浦_江着岸、三月廿四日福浦より出船同廿六日
 朝五ツ時_ニ竹嶋之内いか嶋_与申所_江着岸仕様子
 見申候得_者、鮑大分取上ケ申様相見不審_ニ奉存、同廿七日
 朝濱田浦へ参申内_ニ唐船式艘相見申候、内一艘_者
 すへ船一艘_者浮船_{ニ而}居申候唐人三拾人計見_江申候
 右之浮船_ニ乗り此方之船より八九間程沖を通り大坂
 浦_与申所_ニ廻り申候、右之内兩人_者陸_ニ残居申候所
 又小舟_ニ乗り参申候故此方之舟_ニ乗為申候_而
 何国之者_与相尋候得_者一人ハ通辞_{ニ而}ちやうせん国
 かわてんかわぐの者_与申候故此嶋之儀_者元来日本ノ
 地_{ニ而}從

御公方様代々拝領仕毎年渡海いたし候

嶋_{ニ而}候所_ニ何とて其方共参候哉と相尋候得ハ此嶋より
 北_ニ当り嶋有之三年_ニ一度宛国主之用_ニて
 鮑取_ニ参候、国元_者二月廿一日_ニ類舟拾一艘_{ニ而}致
 出船難風_ニ逢五艘_ニ已上五拾三人乗此嶋三月
 廿三日_ニ流着此嶋之様子見申候得_者鮑有之候間致
 逗留鮑取上ケ候由申候、左候得_者此嶋を早々罷立候
 様_{ニ与}申候得_者船も少損シ候故造作仕調次第_ニ出船
 可仕候間其許御船是_江御すへ可被成_与申候得共
 此方_ニも舟をはすゑ不申先人計陸_江上り見分
 仕候所兼_而此方より拵置候諸道具獵舟八艘見_江
 不申候_ニ付通辞へ段々吟味仕候得_者浦々_江廻し
 遣候由申候、先此方之船すゑ申様_{ニ与}申候得共唐人_者
 大勢此方_者纔_ニ式拾一人_{ニ而}御座候_ニ付無心元奉存
 竹嶋より三月廿七日之七ツ時_ニ出船仕申候、然とも
 何_{ニ而}茂印無御座候_{而者}如何_与奉存唐人之拵置候

味噌 玉

串鮑少、笠耆ツ、網頭巾耆ツ、かうじ耆ツ取致
 出船四月朔日_ニ石州濱田浦_江着舟仕、夫より当四日_ニ
 雲州雲津浦迄参、翌五日之七ツ時分米子へ入津
 仕候、右之趣元禄五壬申年四月六日竹嶋渡海之船頭

水主共口上ニ申候、右唐人弓鉄炮所持不仕哉与
御尋被為遊候、其節吟味仕候所ニ惣而武具之
類所持不仕候

第御二箇條之御返答

一 元禄六癸酉年二月下旬米子出船雲州雲津へ
着岸、三月初頃雲津より出船隱岐国嶋後福浦江
参着、四月十六日四ツ時福浦を出船同十七日八ツ時ニ
竹嶋江参着仕候所ニ唐人大分居申候ニ付、陸へ上り
段々吟味仕候所不埒之申方ニ付、頭と相見申候者
耆人下方之者耆人已上兩人召連竹嶋を同十八日
八ツ時ニ出船仕、同廿七日ニ罷戻り申候而早速鳥取江
御注進申上候處ニ、江戸江御窺被為遊右兩人を
長崎江被遣候、其後戌亥兩年渡海仕候得共
唐人大分居申候ニ付所務不仕帰帆仕候

第御三箇條之御返答

一 竹嶋ニ有之品々委細書付指上候様被為仰付候
ニ付古来渡海之船頭水主共へ相尋候所ニ見知候
物迄品々書留置候ニ付此度左之通書付指上申候

木竹之類

一 五葉の松	一 梅檀木の色黒赤く	一 たいたら
	実はくちなしの	
	しろきものニ御座候	

一 きわだ	一 椿	一 とが
一 榎 槻	一 竹	一 まの竹
一 柵葉もみの葉の	一 桐	一 がび

こつく木の色赤

草之類

一 にんしん	一 にんにく	一 ふき
一 めうが	一 うと	一 ゆり
一 ごほう	一 あおきは	一 ぐみ
一 いちご	一 いたどり	

一 辰砂岩ろくしやうのやうの物御座候得共
獵迄ニ心懸申ニ付此段者耽与知不申候
一 彼地ニ大河三筋御座候、水主共右之川ニ而
手水遣申節嵐ニ何方共なく宜香仕候
其外ニも珍敷物も可有御座奉存候得共

深山^{ニ而}山之内^{江者}ふかく参かたき由申候

第御四箇條之御返答

一 竹嶋東西廣サ之儀竹木重り相知不申由并

嶋廻り^者凡拾里余^茂可有御座哉^与水主共申候

絵図之儀^者別紙^ニ仕指上申候

第御五箇條之御返答

一 竹嶋^ニみち魚之外獸類有之哉^与御尋被

為遊候、左之通書付指上申候

鳥獸之類

一 みち魚 一 ねこ 一 鼠

一 山雀 一 雀 一 あな鳥

一 鳩 一 ひよ鳥 一 かわらひわ

一 四十雀 一 かもめ 一 鶉

一 なちこ 一 つばめ 一 鷺

一 くまたか 其外鷹類

第御六箇條之御返答

一 唐人相渡り候時節^与伯耆国より相渡候時節^与

違候哉^与御尋被為遊候、古来此方より^者二三月^ニ

渡海七月上旬^ニ帰帆仕候、年々渡海之節

吟味仕見申候所^ニ此方より彼嶋小屋之内^ニ囲置候

諸道具獵船等少も取散候様子相見^江不申候間

唐人共前々渡海仕候儀^者無御座^与奉存候

但元禄五壬申年三月^ニ唐人初^而渡海仕候

様^ニ奉存候、然共唐人渡海候時節ハ不奉存候

第御七箇條之御返答

一 伯耆国より竹嶋迄渡海之数里并竹嶋より

朝鮮^江渡海之数里御尋被為遊候、米子より

竹嶋へ^者百四五拾里竹嶋より朝鮮へ^者四拾里程

可有御座候様^ニ水主共申候

御座候

濱目三ツ柳村より隱岐国嶋後へ三十五六里^有竹嶋より朝鮮

山ヲ見渡候所少遠ク相見候故四十里程と申上候

右之通此度御尋被為遊^ニ付、古来書留置候

趣相残候水主^江相尋書付指上申候、已上

伯州米子町人

大谷九右衛門

享保九甲辰年閏四月三日

伯州米子町人

村川市兵衛